

編集・発行：倉敷芸術科学
 大学図書館(〒712-8505 岡山
 県倉敷市連島町西之浦2640
 TEL.086-440-1181 FAX.
 086-440-1182)
 編集・発行責任者：
 館長 足立邦夫(教養学部
 教授)
 編集者：
 館員 橋本直幸・山本和泉
 館報は図書館ホームページ
 でも読めます。
 http://www.kusa.ac.jp/lib/
 MAIN.HTML



倉敷芸術科学大学図書館報

学 而 思

(かくじし)

題号の由来

孔子と弟子たちの言行を取録した『論語』の「子曰、「学而不思則罔。思而不学則殆。」(「先生が言われた、「学んでも考えなければ、はつきり理解できない。考えても学ばなければ、確かなものとならない」)の意)による。読みは日本語の音読みとした。初代学長谷口澄夫先生の筆による。

図書館報の役割

館と利用者との対話と協力



学 長
谷口 澄夫

倉敷芸術科学大学図書館報の創刊は、わが大学図書館のみならず、大学の歴史にとっても新たな1ページを記すものと言えましょう。誕生して4年目に入った本

大学も、教職員・学生諸君がお互いに協力し合い、様々な困難を克服しつつ特色ある個性的な大学づくりに日夜取り組んでいます。図書館員諸君も同様で、所蔵図書についても「昨年よりは今年を」と質量ともに充実することに腐心してまい

り大学がその始まりだとされています。これによって大学図書館は大学の研究と教育にとって必要不可欠なものとなりました。しかし、当時は大量印刷する機械もなく、写本に頼っていただけに、図書は「宝物」そのものでした。それだけに図書館の所蔵リストを充実させることは大変な努力を要することでした。先人たちは絶えざる努力と理想追求の情熱

によって困難を切り拓き、研究と教育の場の充実を一歩一歩図ってまいりました。出発したばかりのわが大学もまさにその途上であり、図書館も多くの困難を克服しつつ前進しています。図書館がいまどう動き、どのような問題を抱えているかについては、われわれとして無関心ではおられません。「電子化の波」もそのひとつでしょう。本大学の図書館は

現在、岡山理科大学から独立したコンピュータを保有する方向に動いています。このような問題はわれわれの研究と教育に影響を与えてくることは言を俵ちません。図書館報の果たす役割は、図書館の抱える問題を広く伝え、問題を考える場を提供するものとなるでしょう。そうすることによって図書館と教職員・学生との間に対話が生まれ、互いが協力関係のきずなによって深く結び合わされることとなります。その先にあるのはお互いが影み、琢き上げるでしょう。図書館報の創刊という新たな一歩を共に祝したいと思

創刊に寄せて

倉敷芸術科学大学図書館報谷あ2全館報は年の「学而思」が創刊されました。館報は年2全「学長と足立邦夫館長が述べています。職員と学生を述べ、教職員と学生に配布されます。

大学に図書館を付設する試みは、神学者ロベール・ド・ソルボン(一七〇一)によって一七五七年に創立されたパ

ていたことは、図書館報の発行でした。このために96年の「図書館資料管理規程」改定の際には、「図書館報発行」の条文を追加しました。

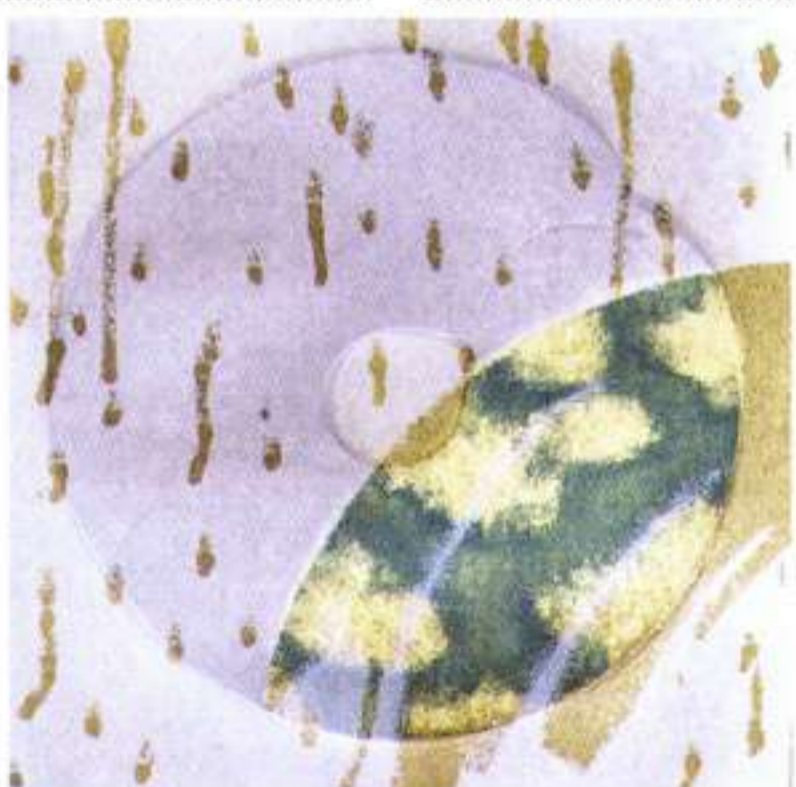
倉敷芸術科学大学図書館報を開学4年目に入ったいま、皆さんの元によりやくのことお届けすることができました。私が大学開学と同時に図書館長に就いて以来、心にかかっ

しかし、「人の問題」が大きき立ちはだかっています。少ないスタッフで館報の発行まで手がけることは冒険的でした。

しかし、本年度、新たに2人が仲間に加わったことでプランは頭の中から離れ、机上の線引きに進み、そしてひと

多くの大学図書館報を参考にさせていただきましたが、例外なく「横書き」でした。われわれが敢えて「縦書き」としたのは、ユニークな大学図書館報を目指そうとしているためです。

現在のところ前期・後期の年2回発行の予定です。多くの協力と支援が得られることによって倉敷芸術科学大学図書館報はこれから大きく成長を遂げていくこと



「鏡」(銅版・シルクスクリーン使用) 高橋・田中研究室指導 芸術学部 美術学科3年 橋本香織

集上の3本柱を立てました。第1は「縦書き」としてのことです。プラン作りでは

第3は「内外の参加」です。教職員は無論のこと、学生たちの参加で紙面作りを進めます。加えて、独善に陥らないため、学外からの寄稿も求め、問題提起も試みたいと思

編集上の3本柱



図書館長
足立 邦夫

縦書き・カラー・内外の参加

後退することはないとすれば、この創刊号は「大きな第一歩」と言えましょう。創刊にあたりわれわれは編

第2は「カラー印刷」としたことです。カラー印刷は複雑かつ費用がかさみますが、時代はカラーを求めています。さらに図書館の明るいイメージ作りをカラーに託したいという

多くの協力と支援が得られることにより、倉敷芸術科学大学図書館報はこれから大きく成長を遂げていくこと

大 芸 数 倉 図 書 館

独自のコンピュータ保有へ

理科大より分離

本大学図書館は99年12月から独自のコンピュータシステム保有の予定です。現在利用の兄弟校「岡山理科大学」の図書館コンピュータからの分離・独立となります。これにより、利用環境の大幅改善が期待されています。(藤得博貴館員)

現在の状況

本大学図書館には、図書データを蓄積するコンピュータはありません。

本大学図書館の端末機と理科大学図書館ホストコンピュータ(IBM9221)とがNTTの専用回線(通信速度9600bps)で結ばれ、理科大学図書館のホストコンピュータの中に確保されている本大学図書館専用領域を利用する仕組みになっています(下図参照)。



決策として「理科大学図書館のコンピュータ利用」が決ま

この結果、本大学での端末機操作により、館員たちは新規購入などした図書のデータを理科大学のホストコンピュータに入力、また蔵書検索する利用者は図書データを理科大学のホストコンピュータから呼び出して、利用しています。

2000年問題

ところが、理科大学図書館はホストコンピュータの「2000年問題」対応を迫られることになりました。

「2000年問題」とは、西暦2000年になると、コンピュータが「西暦2000年」と認識せず、正常に動作

倉敷芸術科学大学
図書館 端末 (倉敷)
通信制御・端末装置
専用回線
岡山理科大学
図書館
IBM9221 (岡山)

しなくなる問題です。コンピュータの容量節約のために西暦の下2ケタのみで処理をする設計がなされたことによるもので、世界中のコンピュータが直面している問題です。

理科大学図書館のコンピュータ(向こう側)の蔵書データを大芸数倉

加えて別の問題も理科大学図書館のコンピュータは解決を迫られています。理科大学図書館のコンピュータは1988年に導入されていますが、①ハードディスクの老朽化・保守打ち切りで新しいハードディスクに買い替える必要がある②現在の理科大学図書館パッケージ(業務を処理するためのコンピュータプログラム)について「将来拡張を行わない」とコンピュータ会社から通告されたこと

このような事態の中で本大学図書館は昨年7月、図書委員会を開き、「図書委員会としては理科大学図書館のコンピュータシステムから離れ、独自のコンピュータシステム保有を希望する」ということ

で委員の意見が一致しました。

LANで所蔵検索

図書館は現在、コンピュータの機種選定に向けて資料収集を行っています。

基本的にはデータの面で理科大学図書館が新たに導入する機種との互換性が図られるものとなる予定です。

本大学図書館が独自のコンピュータシステムを保有することでのようなメリットがあるでしょうか。

その最大のもは、各研究室にあるコンピュータから学内LAN(ローカルエリアネットワーク)を通して図書館のコンピュータにアクセス、蔵書検索・貸し出し状況把握が可能になることです。

図書館には現在、3台の端末機が置かれています。しかし、スペース上からもこれ以上の増設は無理と言えます。研究室のコンピュータを端末機として使用できれば、問題は解決し、この点もメリットとなるでしょう。

今後のスケジュールとしては98年末までに導入機種を決定、99年4月以降に図書館事務室に設置します。そして、理科大学図書館のコンピュータ使用と並行して蔵書データを新コンピュータに移していきます。新コンピュータの本格的稼働は同年12月を目標としています。

「図書館利用ガイド」(第4版)が完成しました。旧版に比べてカラー写真は10枚、ページも4ページ増えました。

しかし、最大の特徴は①継続購入図書(年鑑等)・雑誌

新図書館ガイド

雑誌名の完全収録

索引の完全収録②蔵書検索の操作方法の解り易い点が加わりました。新入生全員には配布されますが、在籍生は希望者が図書館カウンターで受け取ってください。

97年度購入図書 1208冊が書架に

97年度の大学予算による図書購入が終わり、1065冊が書架に並べられました。

これらの図書は96年末から翌97年初めにかけて、選書候補リストを中心に3学部全体の教員と図書館によって選ばれ、最終的には図書館が予算を念頭に置きつつ絞り込んで購入が決定されました。

芸術学部関係の購入図書では、大竹伸郎からスコット・ケリーまでの芸術家100人の作品の紹介と解説の「ART AND AM」(京都書院)全101巻が目玉です。

また、「講座日本映画」(岩波書店)全8巻はわが国の映画作品と製作者の軌跡を知ることが有用でしょう。産業科学技術学部関係では要望の強かった「紀伊國屋数

教養学部関係では、小説家・評論家丸谷才一の批評集(文藝春秋)全6巻が鋭い筆法による日本の今日の問題への切り込みによって思索の機会を与えてくれることでしょう。4年生の卒業研究(卒業論文)の参考資料となる図書への配慮もなされましたが、例えば「日本の公害」(日本図書センター)全6巻、「GHQ日本占領史」(日本図書センター)全11巻などもページが繰られるのを待っています。

図書館関係では「日本百科全書」(小学館)を購入することで百科事典の充実を図る一方、「角川地名大辞典」については37巻から47巻までを購入、全巻をようやく揃え終わりました。

また、「ソフィアの世界」(NHK出版)や、「チョウを飼う日々」(講談社)のような教養書も購入しました。なお、財団法人電気通信普及財団の補助金を得て、購入された電気通信関係の図書143冊も排架が終わり、みなさんの閲覧を待っています。



山岡 萬 謙
教養学部 教授
助教

読書の挿絵期を記憶するこ
とは楽しい。旧制中学2年生
のころであった。私の勉強部
屋であった離れ座敷の2階の
天井裏から、多くの大衆小説
が父の手によって暴き出され
たのである。父は私の手元に

『高見順
集』1冊
しか残し
てくれな
い



高見 順
『高見順集』
河出書房、1943年

菊地寛の「真珠婦人」「第
二の接吻」、久米正雄の「螢
草」「天と地と」を初めとし
て、三上於菟吉、中村武羅夫、
加藤武雄、長谷川伸、子母沢
寛、土師清二、村上元三、富
田常雄、吉屋信子、江戸川乱
歩など秘蔵の書物はすべて焼
き捨てられた。怒りを通り越
して、悲しみに胸が張り裂け
るほどであった。当時は小説
を読むことは墮落することの

父に焼却され1冊残る



漱石、鷗外、藤村、
高見順

実篤、直哉、龍之介、
康成などの作品を手当たり次
第に読みあさった。その中で
も特に感激したのは「春」
「阿部一族」「暗夜行路」「地
獄変」「伊豆の踊り子」「こ
ろ」などであった。岸本捨吉
の青春の苦悩に酔い、阿部弥
一右衛門、権兵衛の武士道的
倫理に胸うたれ、不幸な運命
の波に漂う時任謙作に涙した

した4年目の24歳のときであ
った。当時、作家希望であった
私は、はからずも「高見順集」
と再会したのである。本を持
つ手が震え、目頭があつくな
って、ページをめくるのも忘
れていた。評論家に「青春の
魂のドラマ」と言われたこの
作品は古本屋の片隅で、時空
を超えて、私の本棚に飾られ
るまで眠っていたのである。

始まりと言われていた。
それからは「高見順集」を
暗誦するほど読み返すことし
か許されなかった。しかし、
その唯一の本も、いつしか友
人に貸したままになり、やが
て行方が分からなくなった。
中学4年生のとき、学徒動員
中、軍需工場で終戦を迎えた。
これといった娯楽もない戦後
の青春期に、唯一の心の灯火
となったのは読書であった。
とにかく貪り読んだものであ
る。

のである。また、絵師良秀が
演じた芸術に対する陶醉や自
殺について論じ合い、大学生
Kの生き方への批判を注いだ
のである。
中学5年になると、外国文
学への関心が高まった。「ト
ルストイ」「チェーホフ」「モ
ーパッサン」「イブセン」「ド
ストエフスキー」「ジイド」
「サルトル」などにわれを忘
れることになる。このように
して、私の読書の挿絵期は終
わるのである。

文学青年

高校教師時代(右端)と旧
中2年生のころ(左上)

いよいよ読書の確
立期へと入ること
になる。文学部に
籍をおくと、太宰
治、織田作之助、坂
口安吾、伊藤整ら
の無頼的、退廃的
傾向によって、既
成のモラルに反逆
し、その底に人間
回復を求めようと
した作品に取り組
むことになった。

高等学校に就職
した4年目の24歳のときであ
った。当時、作家希望であった
私は、はからずも「高見順集」
と再会したのである。本を持
つ手が震え、目頭があつくな
って、ページをめくるのも忘
れていた。評論家に「青春の
魂のドラマ」と言われたこの
作品は古本屋の片隅で、時空
を超えて、私の本棚に飾られ
るまで眠っていたのである。

近隣図書館訪問記

倉敷市立中央図書館

レポーター 教養学部2年 木村 公一

地階には市の史料の山

大原美術館と道路を隔てて
真向かいにある。黒い屋根瓦
に白い壁。美術館の趣と
似合っている。
館内に入ると、足元か
らネズミ色のタイルカー
ペットが広がっている。
ワルツのような音楽が館
内に低く流れている。
「粋な公共図書館」の感
じだ。

が私家版として郷土の歴史を
編集したのも所蔵されてい
る。
これらの史料は現在、市役
所内の倉敷市史編さん室で進
められている市史編さんにも
大いに役立っているという。
手渡された資料に興味ある
データが載っていた。倉敷市
と類似8市を比較した場合、
住民1人当たりの市立図書館
蔵書冊数の多さでは、倉敷市
は豊中市に次いで2番目の
2・0冊という。
「文化都市」に住んでいな
がら、この図書館を訪れたの
は初めてだったが、これから
は機会を見つけて利用するつ
もりだ。



武内時雄館長に案内し
てもらおう。
1階は大衆小説などを
並べた一般開架室や中央
紙と地方紙、「愛犬の友」
から「わたしの赤ちゃん」
までの雑誌が揃った新聞
雑誌コーナー
などが配置さ
れている。視
聴覚資料(ビ
デオ、コンパ
クトデイス
ク)が充実し
ているのも魅
力だ。
エレベータ
ーで2階に上
がる。一般開
架室と読書室
を兼ねてい
る。3階に進
む。全国の電
話帳や百科事
典

取材メモ
現館は83年11月、
市役所跡地に開
館。蔵書数46万冊(収蔵能力
約60万冊)。水島、児島、玉
島にも地区館があり、それら
を統括する。4館はコンピュ
ータで結ばれ、他館の図書
貸し出し・返却が可能。移動
図書館2台を巡回させ、図
書館から離れた地域へのサー
ビスも行っている。逝去した
作家の追悼展なども随時行っ
ている。電話(086)42
5-6030



交通機関 ・JR倉敷駅から徒歩15分
・大原美術館前バス停から徒歩約2分

倉敷芸大学生諸君!

直木賞作家

出久根達郎



倉敷芸術科学大学へ入学おめでとう。

私は大学に学ばなかった者なので、諸君が、つくづくうらやましい。

私が中学校を卒業したのは、一九五九年。

手本となるべき友

家が貧しかったので、上の学校へ行かれなかった。その当時「集団就職」というものがあり、学校単位、あるいは村や町単位で、中卒の男女が、東京や大阪に働き手として送りこまれた。ひと列車を仕立てて上京したので、集団就職列車と称され、ちょうど今ごろの季節の風物詩であった。

私は東京下町の古本屋につとめた。なる。日本や外国の古典から現代の、あらゆる本を読まされた。読んだのは私だが、読まされたのである。一人前の古本屋になるための、勉強であった。半ば強制されなかったら、とても本なんか読みはしなかったろう。

著者である。亡くなった方々が多い。それは現在の私の財産だが、私がかくやしいのは、生身の友だちが出来なかったということだ。大学にそこがれたのも、勉強がしたという気持ちだが、もちろんあつてのことだったが、同じ世代の、何でも語りあえる友だちがほしかった。本は、読もうと思えば、いつでも読める。本は、逃げない。

お 知 ら せ
新入生の皆さんには、図書館の利用カードを配布します。図書館の開館時間中にカウンターで「学生証」を提示して受け取ってください。図書を利用するには、図書利用カードが必要です。

図書館

忙々日誌

4月7日 新入生オリエンテーションで館長が「大学と図書館」について語る▽14 本年度採用の橋本直幸、山本和泉両君の図書館配属決定▽24 松江で開催の中国・四国大学図書館協議会総会に館長出席。「雑誌講読費の値上がり」がどこも頭の痛い問題

6月10日 岡大図書館で図書分類ラベルの糊づけ作業などを見学▽18 バーコードの本の内部への貼付実施▽25 背の部分への分類ラベル糊づけ実施/第1回図書委員会開催。図書館コンピュータシステムの理科大学からの分離希望決定

7月13日 出久根氏、館報コラム担当を快諾▽18 前期末試験スタート。館内騒々しく、学生から苦情も。館内放送3回流す▽22 「禁帯出」の英語の辞書2冊、2号館で発見。英会話の試験用に持ち出されたものか▽24 本年度の

9月8日 理事長決裁でコンピュータシステムの理科大学からの分離が正式決定▽16 財団法人電気通信普及財団よりの補助金(本年度分)決定

10月1日 図書館のホームページ開放/インターネットの端末開放(写真)。女子学生2人が利用者第1号/木村公一君、倉敷市立中央図書館取材/芸術学部の「Studio AIOE」、館内でドラマの撮影▽17 館内、暖房に切り替わる▽22 芸術学部の迫田岳臣先生の作品「金赤銀彩花器」展示

11月12日 第2回図書委員会開催。「来年度の図書選定」などについて報告▽学長の中



人気のインターネット利用。芸術学部の学生の利用が目立つ

紙魚独言

出久根さん、もう4年余も前のことである。出久根達郎さんにお会いしたことがある。第108回直木賞を受賞されて約半年後の夏のことだった。東京・中央線のJR高円寺駅近くの出久根さんの古書店「芳雅堂」の帳場である。

出久根さんは44年、茨城県片田舎の生まれ。本好きだったが、コラムにあるように、家が貧乏で本を買う余裕もなく、「本への飢え」を学校の図書館の本を読むことでしのいだ。それでも満たされず、水戸から月に1回やってくる移動図書館の本を架空の名前を使って借りまくった。

出久根さんの小説の師は、いまは亡き井伏鱒二(福山市出身)である。古本屋での仕事が終わった夜、井伏鱒二の小説を傍らに置き、原稿用紙にそっくりそのまま書き写して、文章作法を学んだ。この努力と多大な読書量が「佃島ふたり書房」(わが図書館にもあり)の直木賞受賞へとつながった。